

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 臨床検査技術学科

職階 教授

氏名 松下暢子

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年4月

臨床検査総論1、2については臨床検査の基本的検査項目の内、主に尿検査、糞便検査、髄液検査などの一般検査の術式、検査結果と異常値が出た時の疾患との関連について臨床経験に基づき講義を行う。さらに臨床検査総論実習、衛生、公衆衛生実習については授業で行った内容を実践し、理解することを目指し、実習の指導を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
免疫学1	臨床検査技術学科	必修	2	87
免疫学2	臨床検査技術学科	必修	3	105
免疫学実習	臨床検査技術学科	必修	3	105
臨床免疫学実習	臨床検査技術学科	必修	3	102
輸血・移植検査学・同演習	臨床検査技術学科	必修	4	95
総合臨床検査学III	臨床検査技術学科	選択	4	95
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4	95
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	2	8
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	3	7
卒業論文	臨床検査技術学科	選択	4	3
分子病態解析学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	選択	1	2

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

免疫学1、2については免疫学の基礎を学び、免疫学的検査の原理を理解し、異常値が出るメカニズムを理解する。さらに輸血・移植検査学・同演習では疾患との関連について臨床経験に基づき講義を行う。免疫学実習、臨床免疫学実習については授業で行った内容を理解し、実際に検査を行い、その結果から得られる情報を理解できるように指導している。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床検査技師を目指す学生には、自らの学習によって得られる知識や技術がどのように社会に貢献できるのか具体的に理解することによって、学習の意欲を持ち続けてほしい。高齢化社会の現代において、検査を受けることなく過ごす人はいまや皆無に等しく、疾患の早期発見のみならず、予防医学の観点からも臨床検査の意義は重要性を増している。しかしながら医療の進歩は目覚ましく、卒業後、常に新しい検査法、治療法を理解し働き続けることは困難である。そのために、生涯にわたり学習を続けることができる基盤を大学生活において培う手助けができるよう心がけ、努力していきたい。全ての学生が国家試験に合格した後、さらに卒業後においても生涯教育の場を提供し続ける場所として大学が存在できるように教員として尽力していきたい。

### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

授業を理解し、さらに主体性をもって学ぶことができるように、授業の後半に授業内容に関連した問題について各自で取り組んでもらっている。それまでの内容を再度振り返ることによって、講義内容への理解と知識の定着を目指す。さらに、その後の問題解説によって、不足している部分を自主的に補うことができるようにしている。授業と実習をリンクさせてさらに理解が深められるように、演習においては小グループ学習を充実させている。

### (2) ICTの教育活用

有

授業内容の定着を目指し、毎回の授業において、学理を用いて国試形式の小テストを行っており、その後、問題の解説を行っている。このとき正答率で理解度を測っている。さらに、授業後には学理にあげた教材を活用して復習にあてている学生も多く見られている。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

授業においては、免疫学の基礎について学ぶだけにとどまらず、検査の意義を理解するために講義している。また免疫学に関連した疾患の病態生理や検査方法の歴史などを複合的に紹介することによって理解を深めるよう努力している。さらに講義のみではなく、授業内に復習問題に取り組んでもらい、さらにその解説を行うことによって、理解が深まるように取り組んでいる。

### (2) 学生の理解度の把握

A

授業内に復習問題に取り組んでもらい、その結果を確認することによって理解度をはかっている。さらに復習問題の評価は提出時に各自見られるように設定しており、学生自らが到達度を確認することができるようにしている。また復習問題の解説は次回の授業の最初に行うことによって知識の定着を目指している。

### **(3) 学生の自学自習を促す工夫**

**A**

授業後の確認テストの結果を、各自確認することによって、授業の理解度を知り、不足している内容を復習できるようにしている。また、学生からの質問を授業後にうけており、講義内での疑問などについてはその時間内に解消できるようにしている。

### **(4) 学生とのコミュニケーション**

**A**

学生からの個別の質問に対しては、対面でもメールでも必ず誠実に、できるだけやる気を出させるように応じるようにしている。メールで来た場合は返信を行ない、必要な情報がある場合はAzaMoodleで周知する。課題や小テストの提出においても各学生の事情に応じた対応を行なっている。

### **(5) 双方向授業への工夫**

**A**

授業を受けるだけでなく、毎回、課題テストを受け、その結果を知ることによって、授業への理解を深めるようにしている。

### **(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）**

**A**

国試対策としては、2、3年次における授業中の小テスト、中間テスト、期末試験においてすべて国試形式で行っており、早い段階から国試への取り組みを促している。さらに、4年次においては、国試対策として傾向と対策をとり入れた授業を行うことによって理解を深められるように努力している。学生からの個別の質問に対しては、対面でもメールでも必ず誠実に、できるだけやる気を出させるように応じるようにしている。メールで来た場合は返信を行ない、課題や小テストの提出においても各学生の事情に応じた対応を行なっている。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

学生の授業評価アンケート結果に基づき、学生が、予習復習を行いやすいようにAzaMoodleに教材、課題をあげ、毎週課題のテストを行ない、採点結果を学生自らが確認することができるようにし、授業ごとの理解度を把握しやすいようにした。また振り返りのために中間テストを行ない、到達度を把握してもらった。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

課題のテストに加えて、中間テストを行うことによって、より単元ごとに授業にとりくめるようになった。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

次年度も授業後に確認テストを行い、さらに中間テストも行い、効率的な知識の定着を図りたい。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

3年次の授業終了時まで、ある程度の理解ができているかを確認するような総括的な試験を行い、その後の臨床実習に取組めるようにしている。これらの授業や臨床実習の経験が、国家試験の勉強に反映されていくように試みている。

### (2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

病院実習を行いながら教材を復習しているという意見を聞き、今後も実習そして卒業後においても活用できる教材を作成していきたい。

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

毎回、積極的に参加している。業務で参加できない場合は、後日、録画で確認している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

臨床検査技師を目指す学生に自らの学習によって得られる知識や技術が今後どのように社会に貢献できるのか少しでも理解できるように授業を行っていきたい。そのためには検査の臨床的意義について疾患の病態を中心に説明していき、さらには予防医学的観点からの意義についてもあわせて説明していきたい。その結果として国家試験の合格率を上げていきたい。また、生涯教育の場所としての大学の取組も積極的に行っていきたい。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

AzaMoodleに授業資料、小テスト等をあげている。